

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017

地域共生社会の実現を目指して

食事もできる 放課後寺子屋

2018年3月4日

コミュカフェ 和 咲良

代表 中谷 淳子



実現したいこと と その理由

実現したいこと

地域で子どもを育てる仕組みをつくり

放課後児童を

ハッピーにします！

定義

放課後児童って？

放課後、保護者が家庭にいない児童です。
孤食、学習水準の低下、コミュニケーション力
不足などにより悪い影響が出やすい環境にあります。

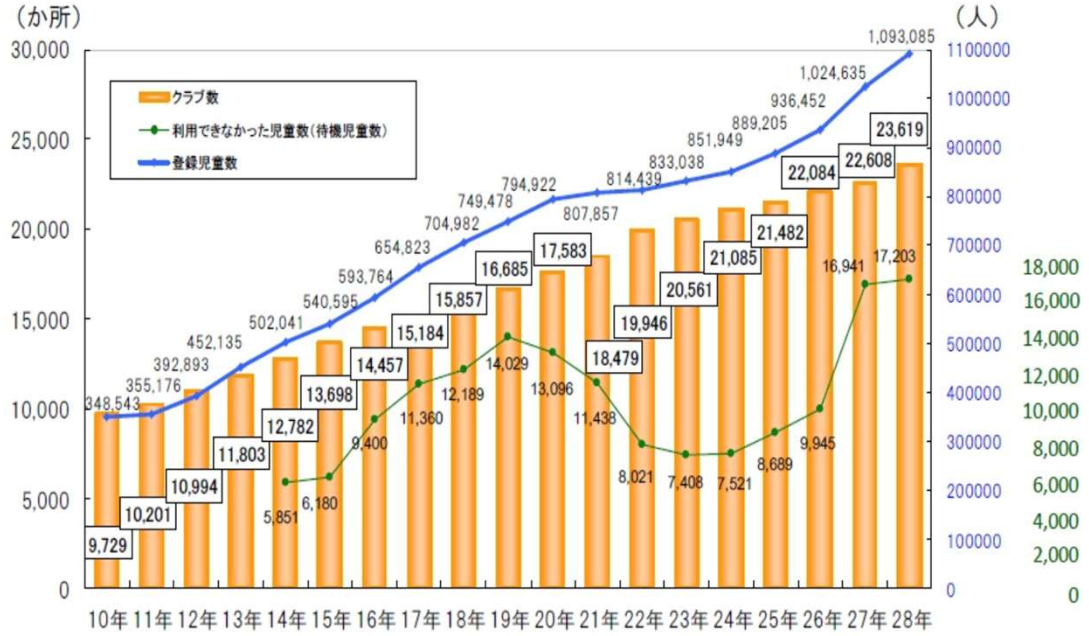


現状	放課後児童の増加。基本的な生活習慣と学習能力を身につけることができない子どもが増加。
本事業	健康に良い食事と、ボランティアの高齢者が学習させることができる場を提供します。
解決	人生経験豊かな高齢者から総合的な学習（教育・社会性・コミュニケーション能力・生きる力）を享受でき、健康に良い食事もできます。

理由：放課後児童のおかれている現状

放課後児童数が全国、山口県、宇部市で増えています。

■全国の放課後児童クラブ数、登録児童数、及び登録できなかった児童数の推移



登録児童数、クラブ数とも増加傾向。
登録児童数は対前年約7万人増の1,093,085人。
利用できなかった児童数も対前年約260人増の17,203人。

(出所：平成28年 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況〔厚生労働省〕)

理由：放課後児童のおかれている現状

山口県は登録児童数が多く、施設を利用
できなかった待機児童数も全国ワースト2位。

■都道府県別放課後児童数

都道府県	H27 登録児童数 (人)	H28登録児童数		
		人口10万人 当たり	伸び率	
山口県	10,768	12,096	876	12.3%
広島県	9,558	10,037	355	5.0%
福岡県	24,383	25,967	508	6.5%
全国	707,689	750,322	592	6.0%

■利用できなかった児童数（待機児童数）

ワースト 順位	都道府県	待機児童数	
		待機児童数	人口10万人 当たり
1	沖縄県	624	43.2
2	山口県	415	30.0
3	東京都	3,041	22.1
—	全国	11,577	9.1

（左右と下左図の出所：「平成28年 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施状況〔厚生労働省〕」を編集加工）

理由：放課後児童のおかれている現状

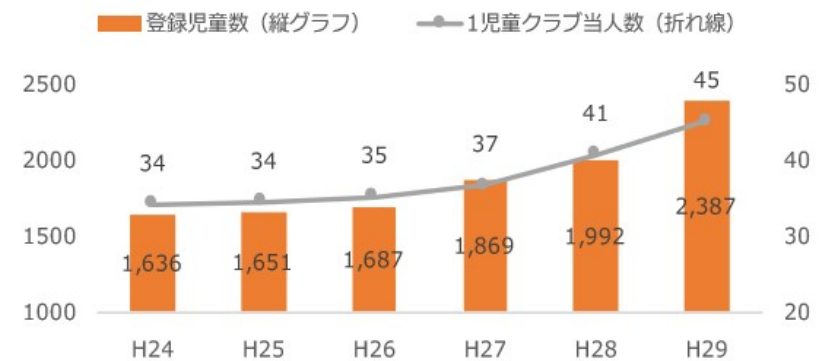
さらに山口県は放課後児童支援常勤職員が少なく
宇部市の登録児童数も急激に増加し、支援が
追いついていないのが現状です。

■放課後児童支援常勤職員数とその割合

ワースト 順位	都道府県	待機児童数	常勤職員数	常勤職員数 一人あたりの 登録児童数
1	大阪府	32,324	182	177.6
2	愛媛県	7,570	76	99.6
3	山口県	12,096	129	93.8
—	全国	750,322	23068	32.5

(左図の出所：上記と同様)

■宇部市の登録児童数と児童クラブ当人数



(右図の出所：宇部市「学童過去6年間の利用実績」を編集加工)

放課後児童問題を解決する放課後寺子屋事業

そこで、

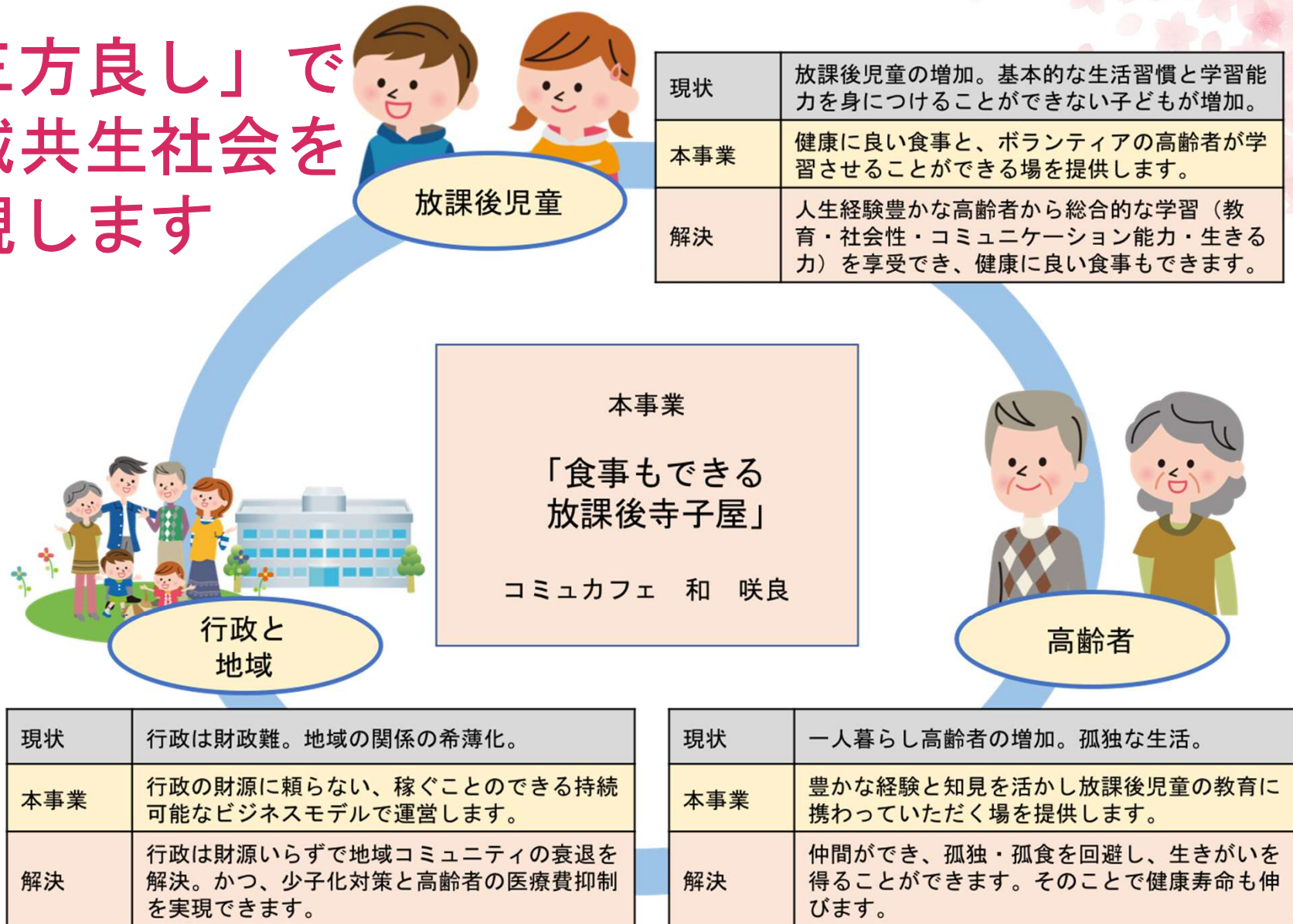
『放課後児童問題を地域で解決する
放課後寺子屋事業』
をスタートさせます！

放課後児童だけでなく、
高齢者と地域も
ハッピーになる仕組みなんです！



当店の取り組む事業

「三方良し」で 地域共生社会を 実現します

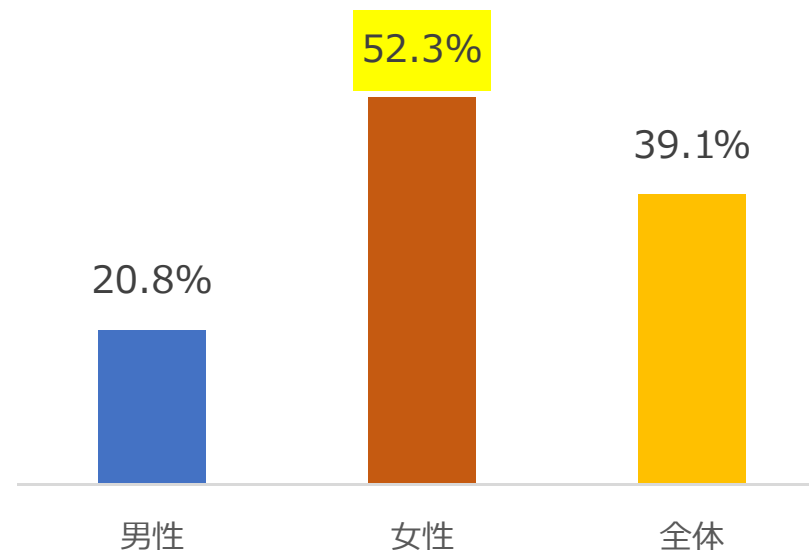


理由：高齢者のおかれている現状

全国的に単独世帯の孤独な高齢者が増加し
宇部市では高齢女性の半数以上が単身です。

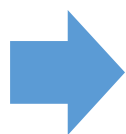
■ 家族形態別に見た65歳以上の高齢者の割合

■ 宇部市の65歳以上の男女別独身率



(出所：内閣府「平成29年版高齢社会白書」)

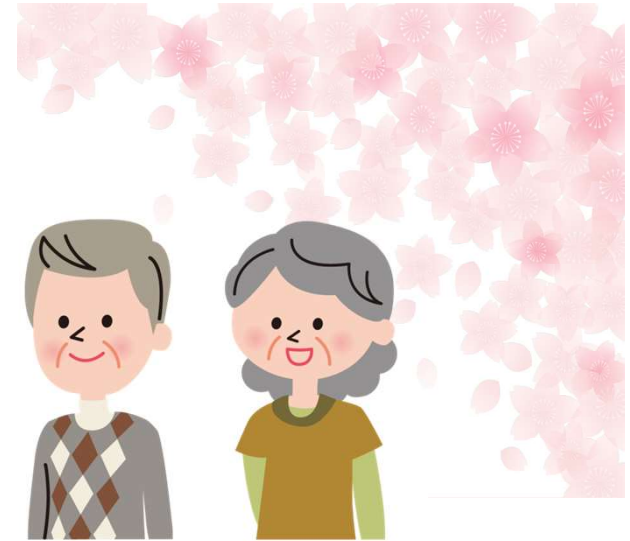
(出所：宇部市提供データを編集加工)



孤独な高齢者が増加しており、高齢者の豊富な経験や知見が活かされていません。

やりたいこと

孤独な高齢者も ハッピーになります！

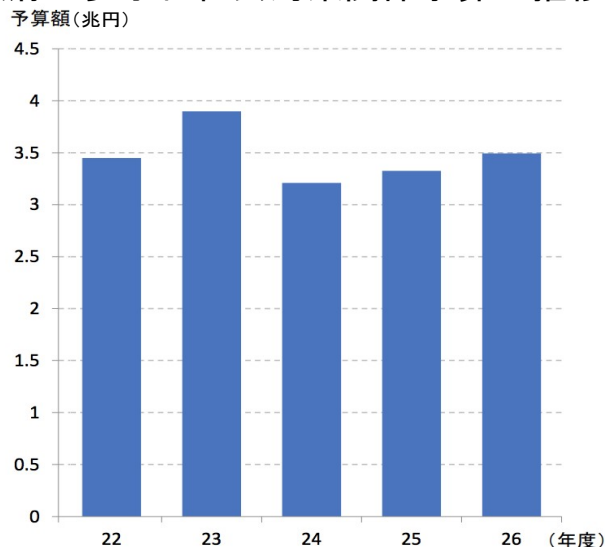


現状	一人暮らし高齢者の増加。孤独な生活。
本事業	豊かな経験と知見を活かし放課後児童の教育に携わっていただく場を提供します。
解決	仲間ができ、孤独・孤食を回避し、生きがいを得ることができます。そのことで健康寿命も伸びます。

理由：地域や行政のおかれている現状

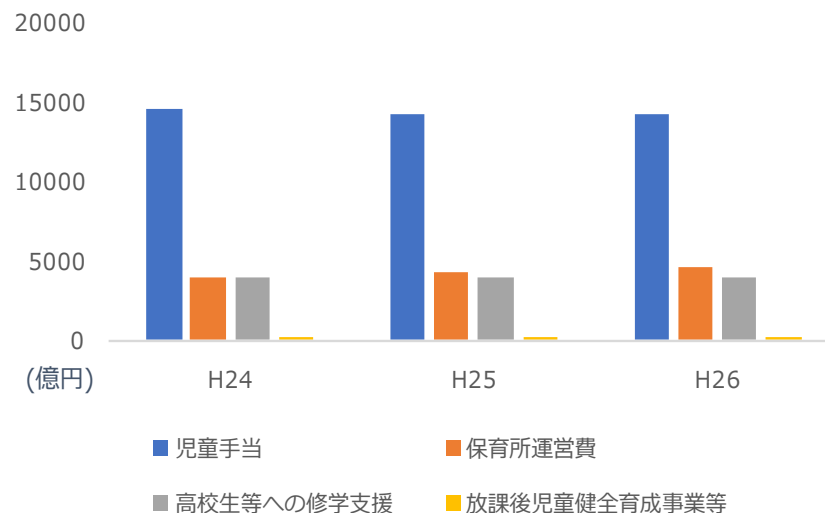
行政の少子化対策予算自体も伸び悩んでおり、放課後児童対策の予算は十分とは言えません

■ 政府の少子化社会対策関係予算の推移



(出所：左右とも：内閣府「「選択する未来」委員会：経済財政諮問会議」を編集加工)

■ 少子化社会対策関係予算の推移(上位3項目との比較)



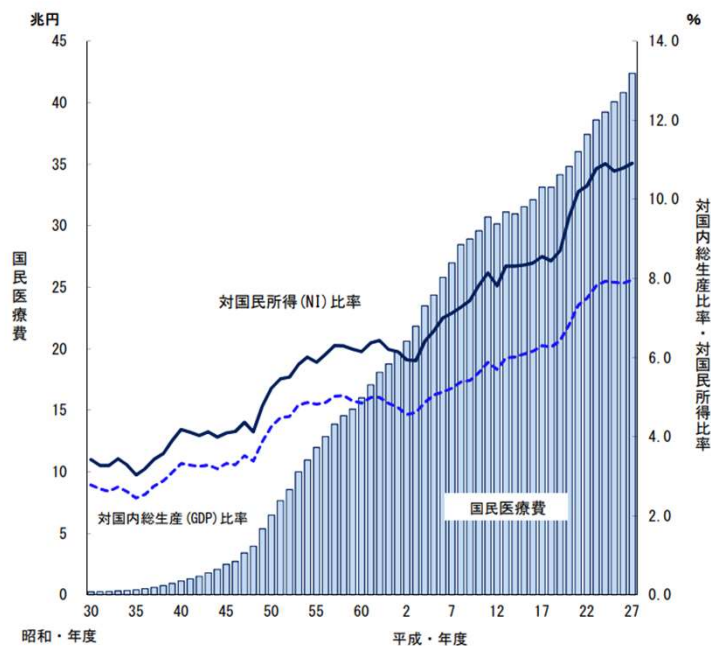
こういった国全体の状況の中、宇部市も歳入面では市税や地方消費税交付金が伸び悩む一方、歳出面では社会保障関係経費等の増加をはじめ逓増傾向であり財政状況は厳しい状況です。

行政は放課後児童対策にまで十分には予算が割けず地域の関係も希薄化が進んでいます。

理由：地域や行政のおかれている現状

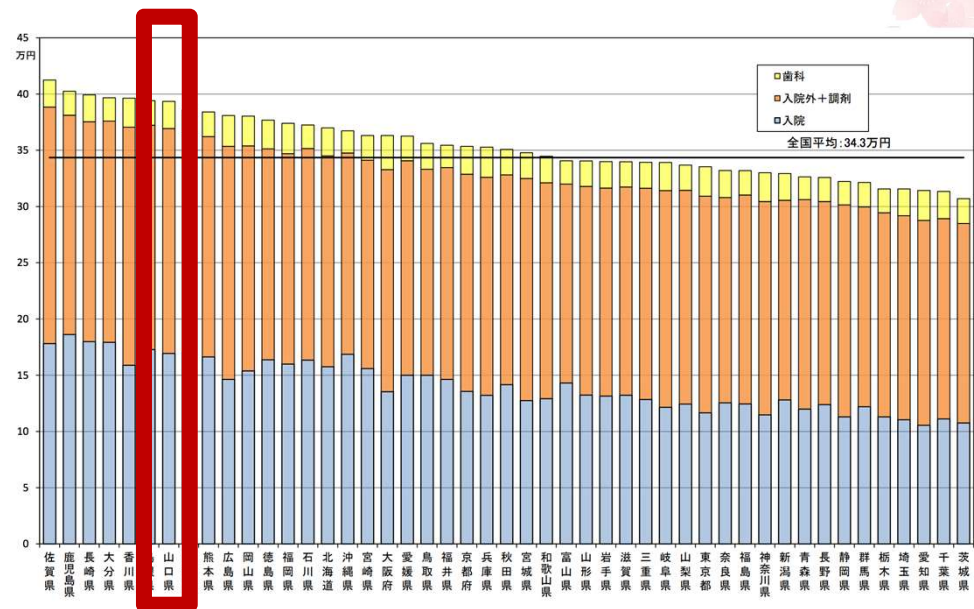
山口県の医療費は全国的に見ても高い

■国民医療費の推移

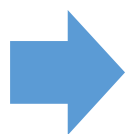


(出所：厚生労働省「平成27年度 国民医療費の概況」)

■都道府県別1人当たり年齢調整後医療費



(出所：厚生労働省「平成27年度 医療費の地域差分析」)

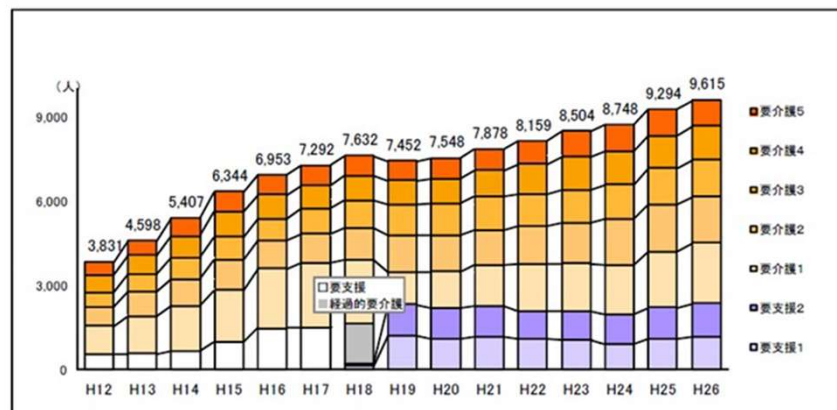


医療費抑制は日本全体の課題ですが山口県は1人あたりの医療費が高く喫緊の課題です。

理由：地域や行政のおかれている現状

宇部市も医療費、中でも介護費用が増加

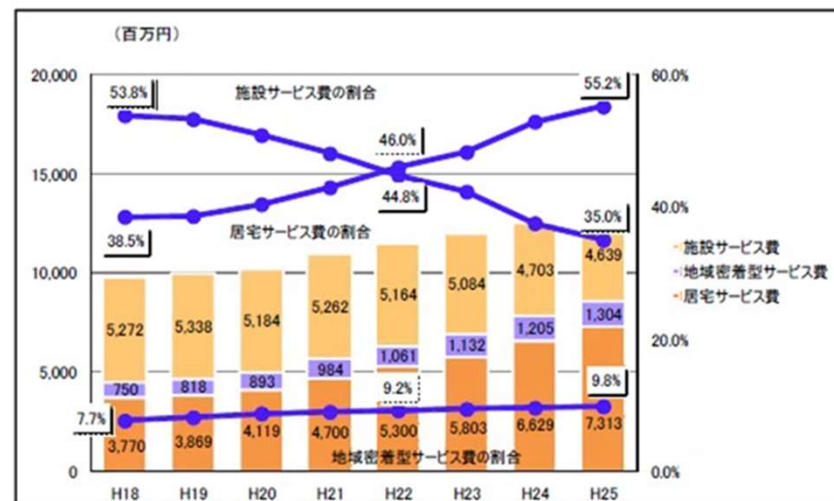
■宇部市介護認定者数の推移



《各年4月末現在》

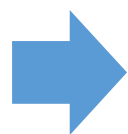
(出所：左右とも：宇部市高齢者福祉計画)

■介護給付費の推移



《各年度実績》

宇部市も、歳出面では高齢者の医療費をはじめとした社会保障関係経費等の増加をはじめ遡増傾向であり財政状況は厳しい状況です。



放課後寺子屋を通じて高齢者の健康寿命が延びること、医療費の抑制にもつながります。

やりたいこと

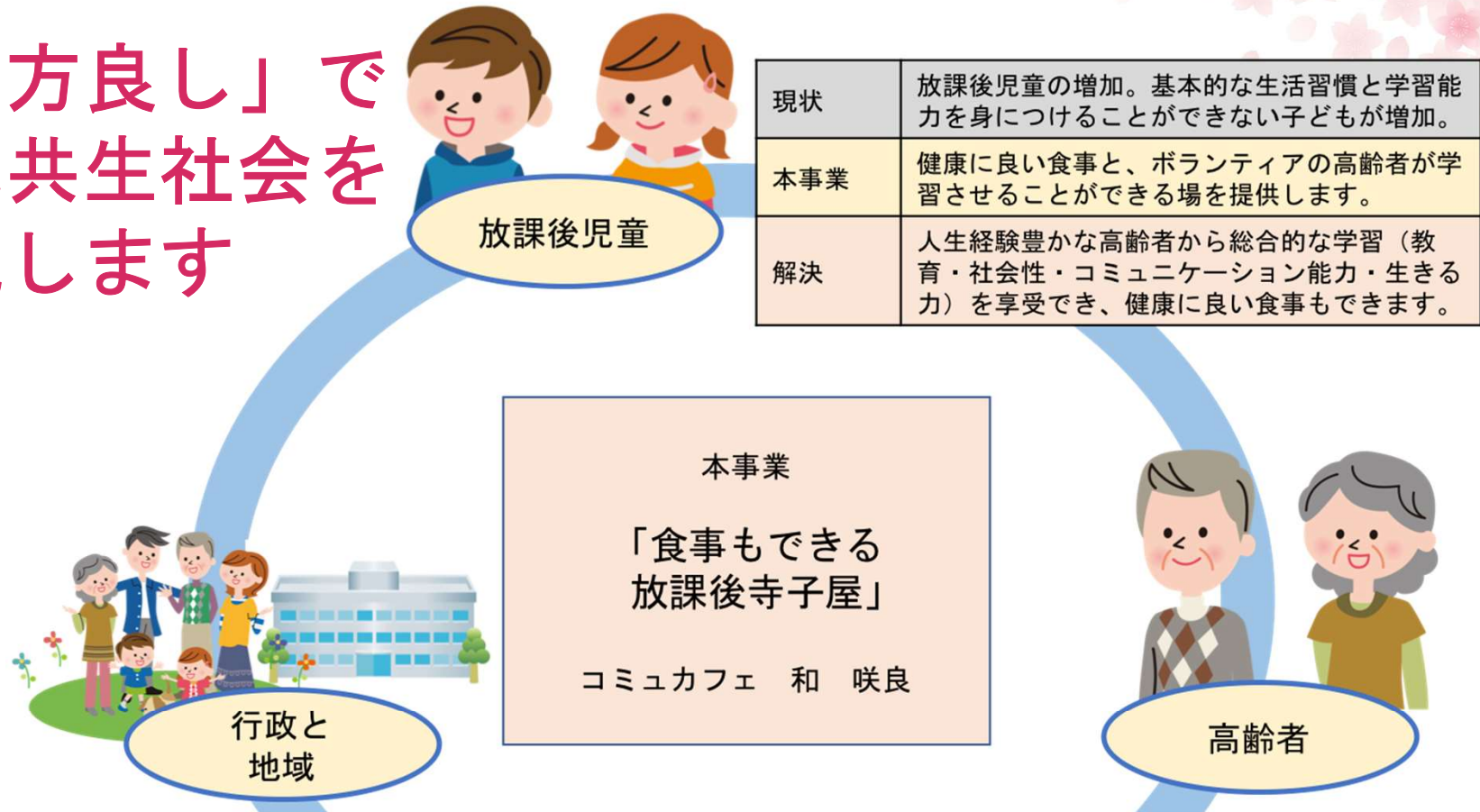
地域や行政も
ハッピーになります！



現状	行政は財政難。地域の関係の希薄化。
本事業	行政の財源に頼らない、稼ぐことのできる持続可能なビジネスモデルで運営します。
解決	行政は財源いらずで地域コミュニティの衰退を解決。かつ、少子化対策と高齢者の医療費抑制を実現できます。

当店の取り組む事業

「三方良し」で 地域共生社会を 実現します



現状	放課後児童の増加。基本的な生活習慣と学習能力を身につけることができない子どもが増加。
本事業	健康に良い食事と、ボランティアの高齢者が学習させることができる場を提供します。
解決	人生経験豊かな高齢者から総合的な学習（教育・社会性・コミュニケーション能力・生きる力）を享受でき、健康に良い食事もできます。

現状	行政は財政難。地域の関係の希薄化。
本事業	行政の財源に頼らない、稼ぐことのできる持続可能なビジネスモデルで運営します。
解決	行政は財源いらずで地域コミュニティの衰退を解決。かつ、少子化対策と高齢者の医療費抑制を実現できます。

現状	一人暮らし高齢者の増加。孤独な生活。
本事業	豊かな経験と知見を活かし放課後児童の教育に携わっていただく場を提供します。
解決	仲間ができ、孤独・孤食を回避し、生きがいを得ることができます。そのことで健康寿命も伸びます。



実現への 流れ

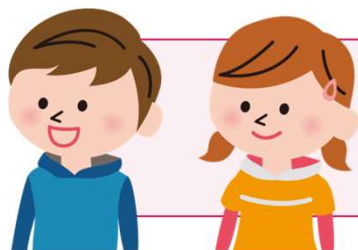
放課後児童問題を解決する放課後寺子屋事業

事業の概要

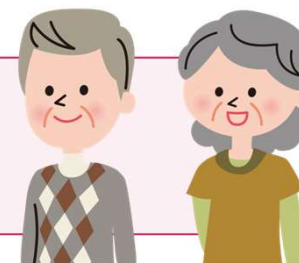
「地域の高齢者の協力で創る」食事もできる
放課後寺子屋

ビジョン

『放課後児童』と『孤独になりがちな高齢者』が健康によい食事と楽しい会話で、お互いに良い影響を与え、教え学び合い、笑顔で健康になれる『癒しの空間』です。



子供、高齢者とも
ハッピーに！



放課後寺子屋事業の具体的内容と効果



放課後児童

- ・ 宿題 → 基礎的な学習能力向上
- ・ 高齢者とのコミュニケーション
→ 社会性、考える力、生きる力
- ・ 子供間でのコミュニケーション
→ 社会性、仲間づくり、思いやりの心

両者

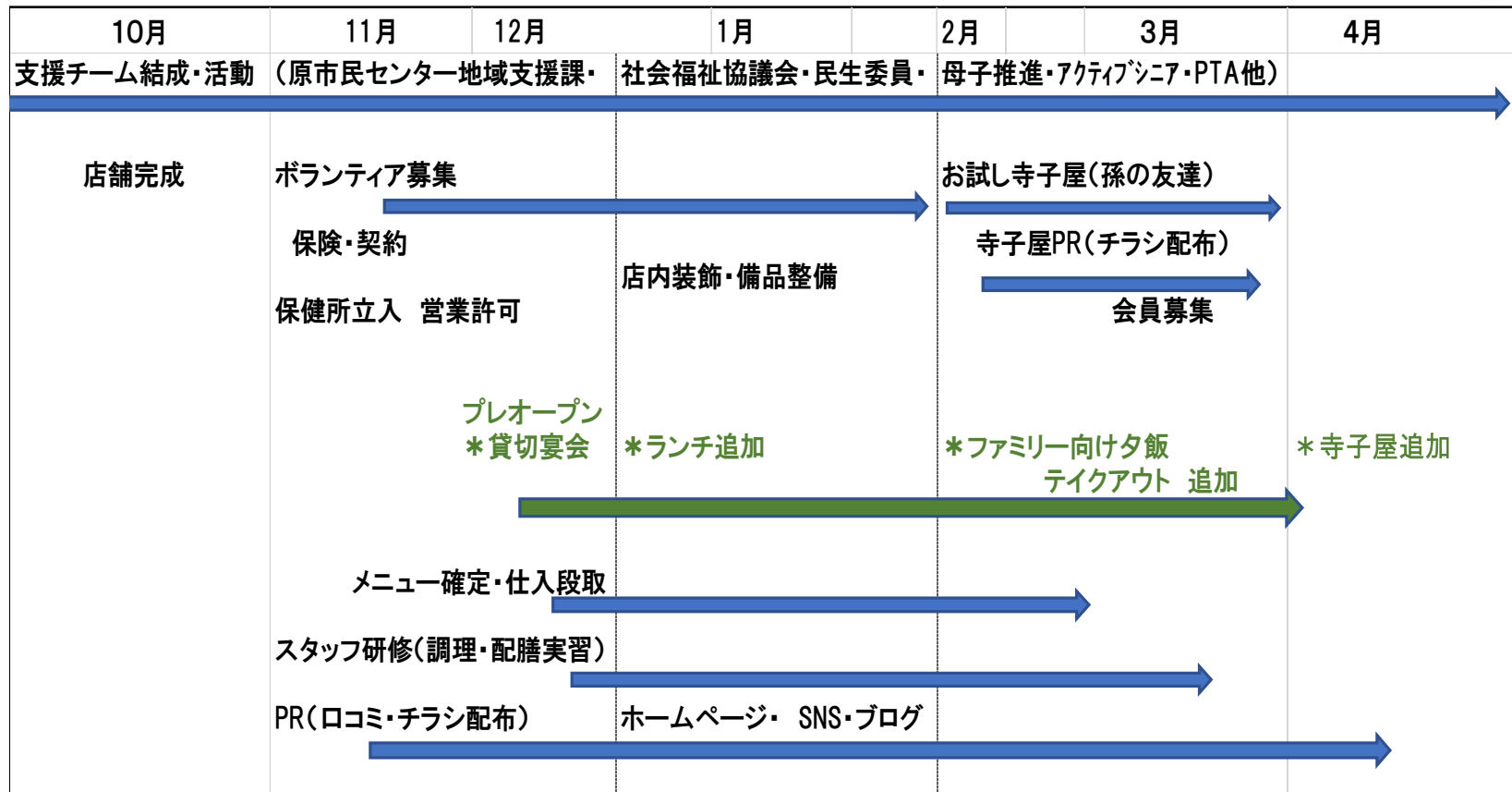
- ・ 食事
→ 孤食の回避、健全な食生活への一歩



高齢者

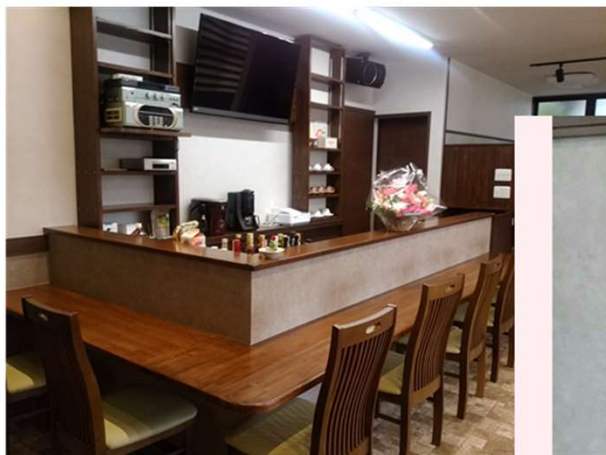
- ・ 子供とのコミュニケーション
→ 心の癒し、健康寿命の向上
- ・ 高齢者間でのコミュニケーション
→ 生きがいづくり、仲間づくり、健康寿命の向上

放課後寺子屋事業の実現に向けた マイルストーン



放課後児童問題を解決する放課後寺子屋事業

現況



放課後寺子屋事業の成果

「三方よし」で
地域共生社会を
実現します



放課後児童

現状	放課後児童の増加。基本的な生活習慣と学習能力を身につけることができない子どもが増加。
本事業	健康に良い食事と、ボランティアの高齢者が学習させることができる場を提供します。
解決	人生経験豊かな高齢者から総合的な学習（教育・社会性・コミュニケーション能力・生きる力）を享受でき、健康に良い食事もできます。



行政と
地域

本事業

「食事也能する
放課後寺子屋」

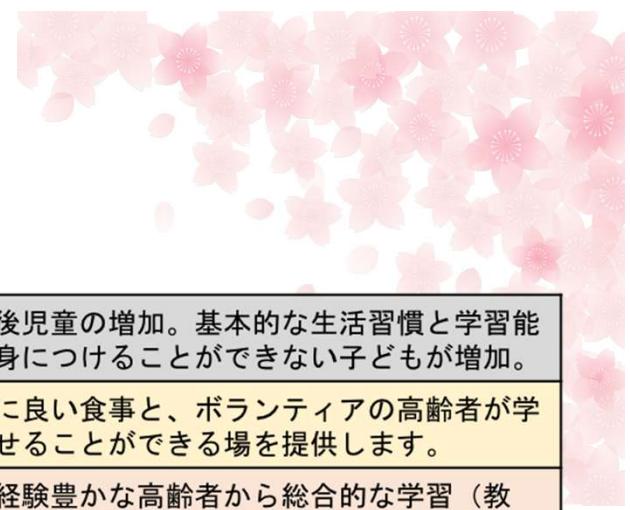
コミュカフェ 和 咲良



高齢者

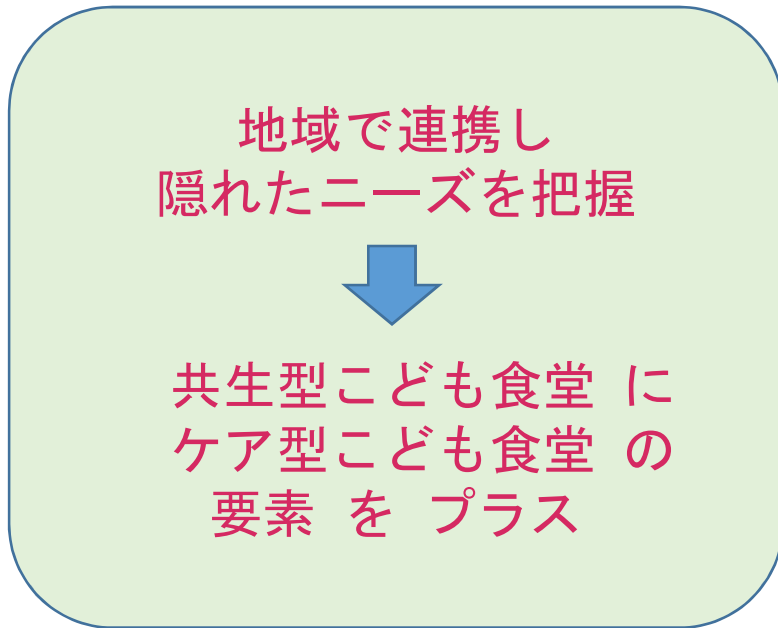
現状	行政は財政難。地域の関係の希薄化。
本事業	行政の財源に頼らない、稼ぐことのできる持続可能なビジネスモデルで運営します。
解決	行政は財源いらずで地域コミュニティの衰退を解決。かつ、少子化対策と高齢者の医療費抑制を実現できます。

現状	一人暮らし高齢者の増加。孤独な生活。
本事業	豊かな経験と知見を活かし放課後児童の教育に携わっていただく場を提供します。
解決	仲間ができ、孤独・孤食を回避し、生きがいを得ることができます。そのことで健康寿命も伸びます。

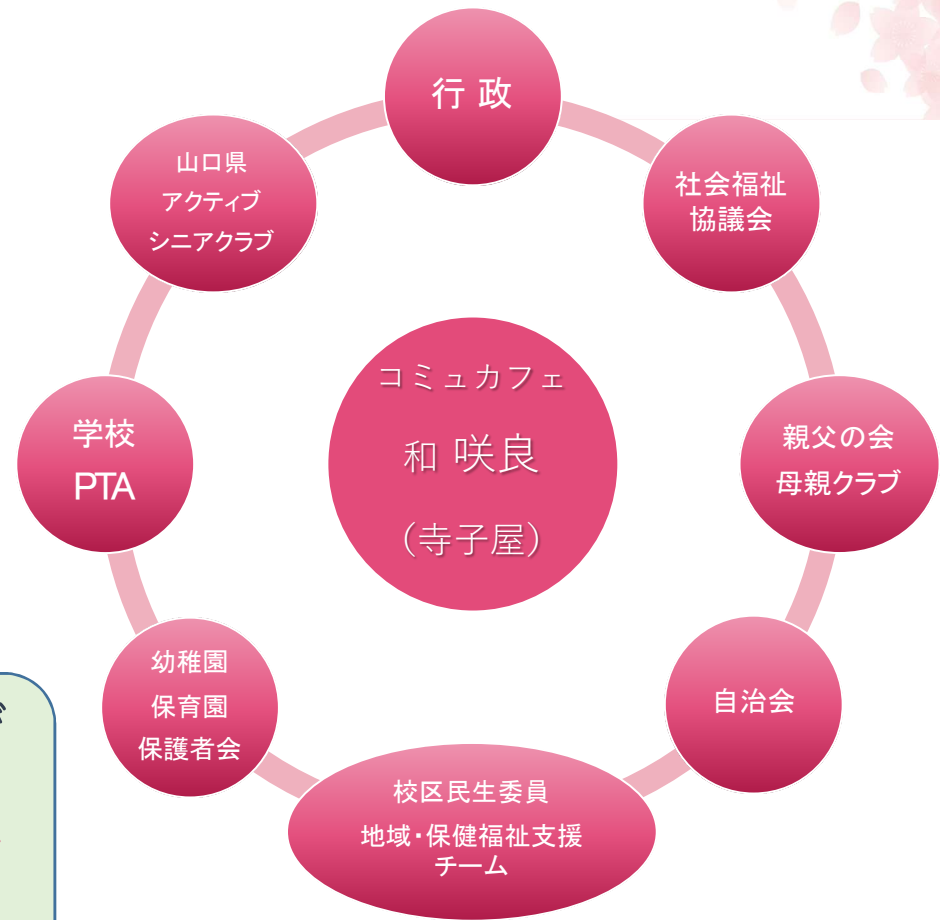


放課後寺子屋事業の中長期の目標

事業の充実：地域での連携を拡大



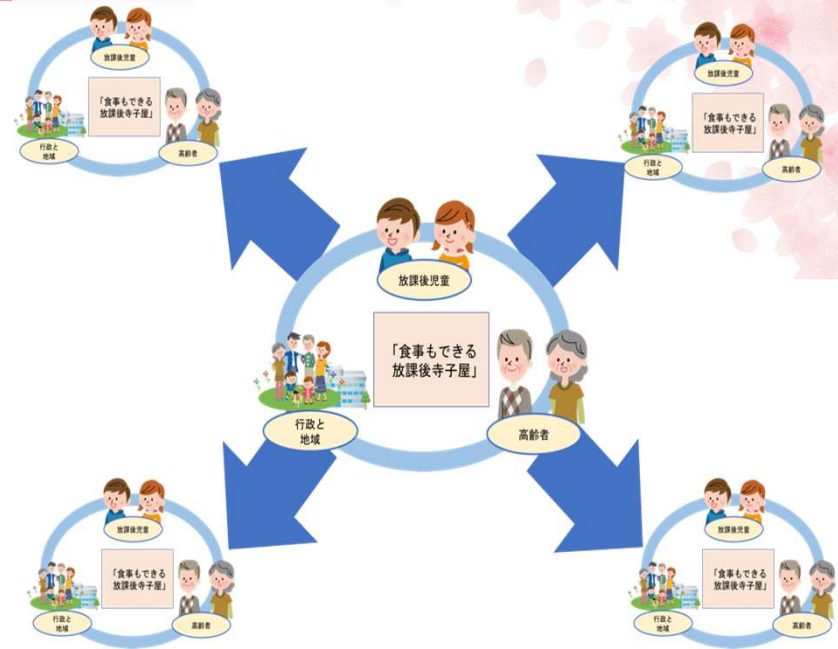
チケットに名前を書きだけで食事と学習支援が
受けられる環境をつくり
会費を払えない家庭の子どもが肩身の狭い思
いをしたり、差別や中傷を受けずに寺子屋で
ハッピーになれます。



放課後寺子屋事業の中長期の目標

横展開：各校区に1つ設置

宇部市、山口県、
全国の各校区に1つ
地域で支える



『食事もできる放課後寺子屋』

この仕組で「子供」「高齢者」
「行政」がもっとハッピーに。

ご清聴ありがとうございました



地域共生社会の実現を目指して

コミュカフェ 和 咲良

代表 中谷 淳子

コミュカフェ 和 咲良 ～食事もできる放課後寺子屋～